

横浜開港160周年。客船寄港数は過去最多。

10連休が注目を集めている今年のゴールデンウィーク初日の4月27日には、横浜港の三つのふ頭に超大型客船を含む外国クルーズ客船4隻が同時に着岸し、横浜発着クルーズを展開する。横浜ベイブリッジを通過できない超大型客船でパナマ船籍のMSCスプレンドィダ（13万7936トン、4363人）と、初入港となるマルタ船籍のアザマラ・クエスト（3万277トン、694人）の2隻が大黒ふ頭に初めて同時着岸するほか、バハマ船籍のノルウェー جان・ジュエル（9万3502トン、2376人）は山下ふ頭に、英国船籍のダイヤモンド・プリンセス（11万5906トン、2706人）は横浜港大さん橋国際客船ターミナルに停泊する。

4隻の同時着岸は日本で初めてで、1万人超の乗船客が一斉に訪れることから、横浜市では、市内での滞在を促す魅力ある観光コンテンツを打ち出すことにしている。

横浜開港160周年を迎える今年クルーズ客船の寄港数は約190回、そのうち外国客船は約90回でいずれも過去最多となる見通し。横浜市はクルーズによる観光振興を進め、経済活性化を目指すとともに、羽田空港から車で約20分という好立地にある横浜港をアピールすることで、飛行機と客船を乗り継ぐ「フライ・アンド・クルーズ」も提案、都内に近い利便性も訴えることにしている。

具体的には、横浜の名勝・三溪園をはじめとした文化施設や県内の温泉地など観光資源を外国客船の乗客向けにPRし、「乗船前や下船後に市内のホテルに泊まってもらえるようにしたい」と意気込んでいるので注目していきたい。

神奈川新聞社 東京支社長兼営業部長 木村聡



横浜港を出港するダイヤモンド・プリンセス(左)と、大黒ふ頭に着岸するMSCスプレンドィダ